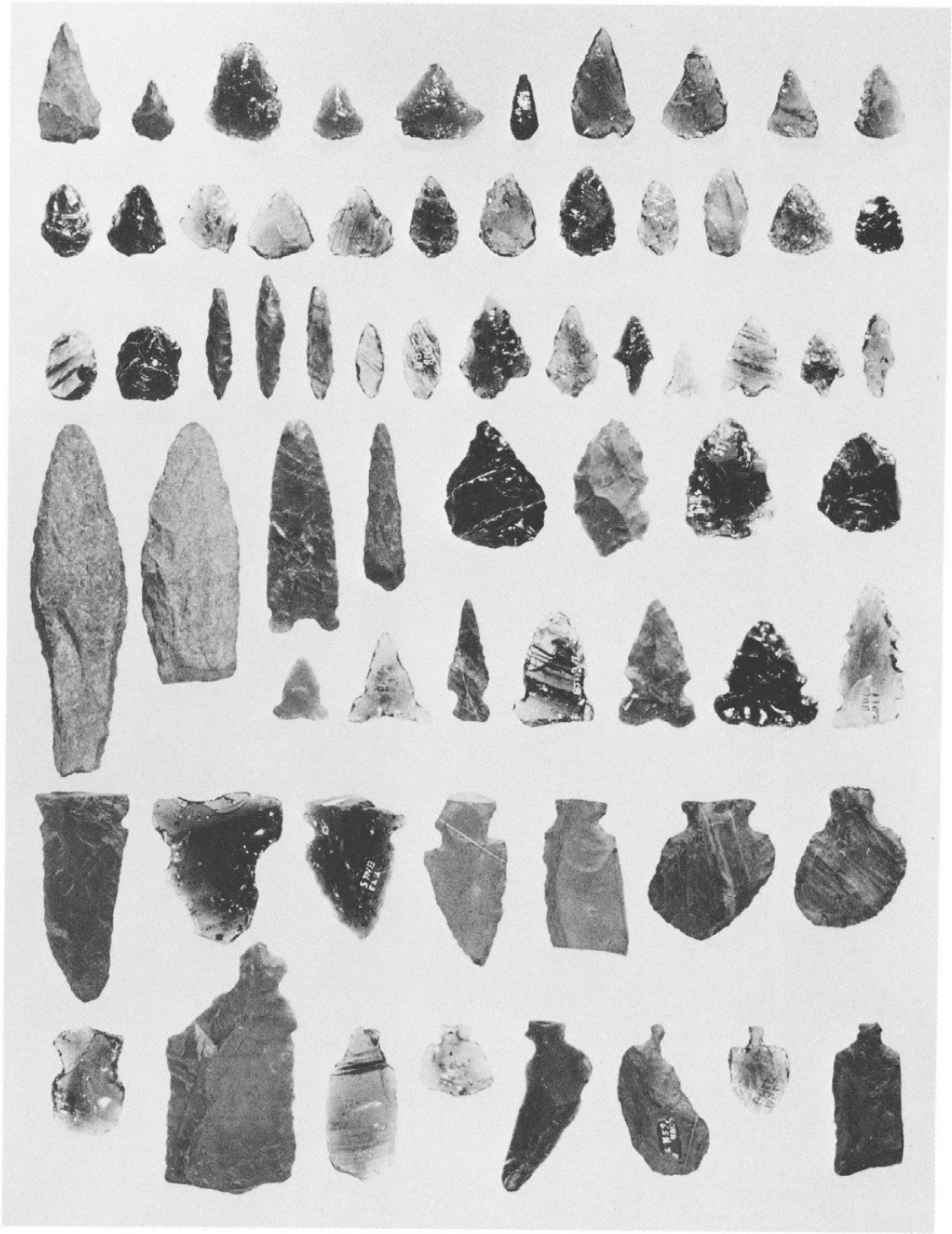
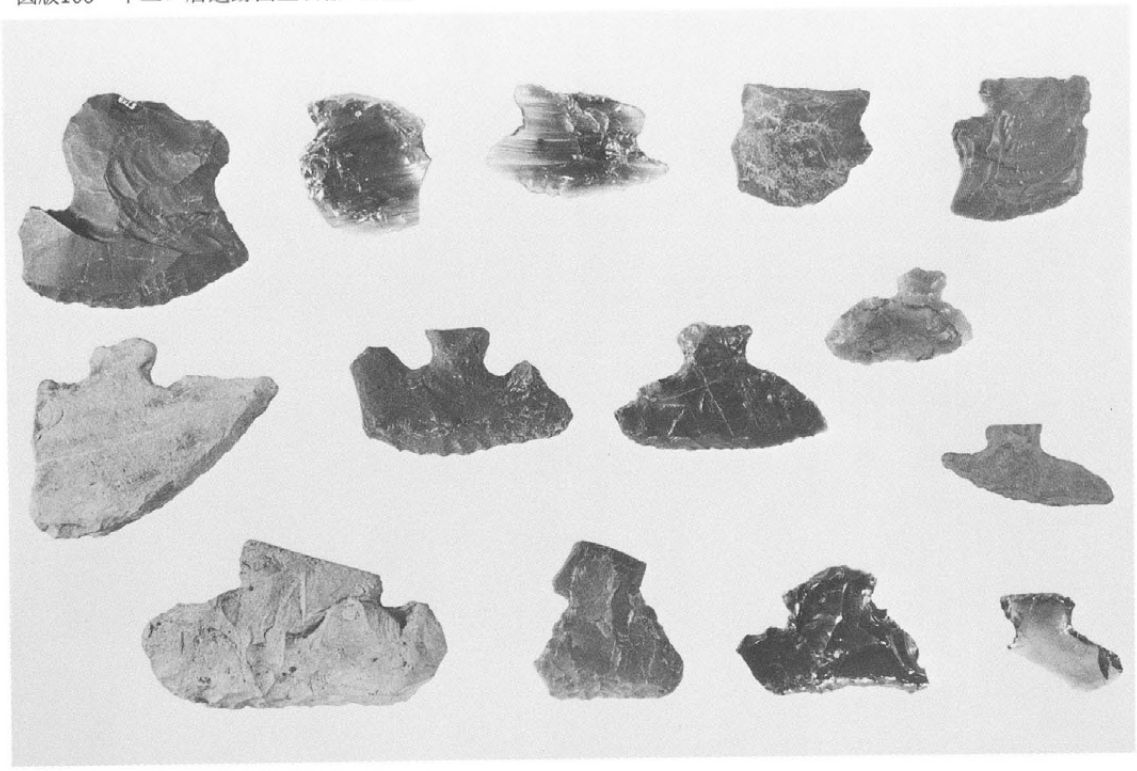
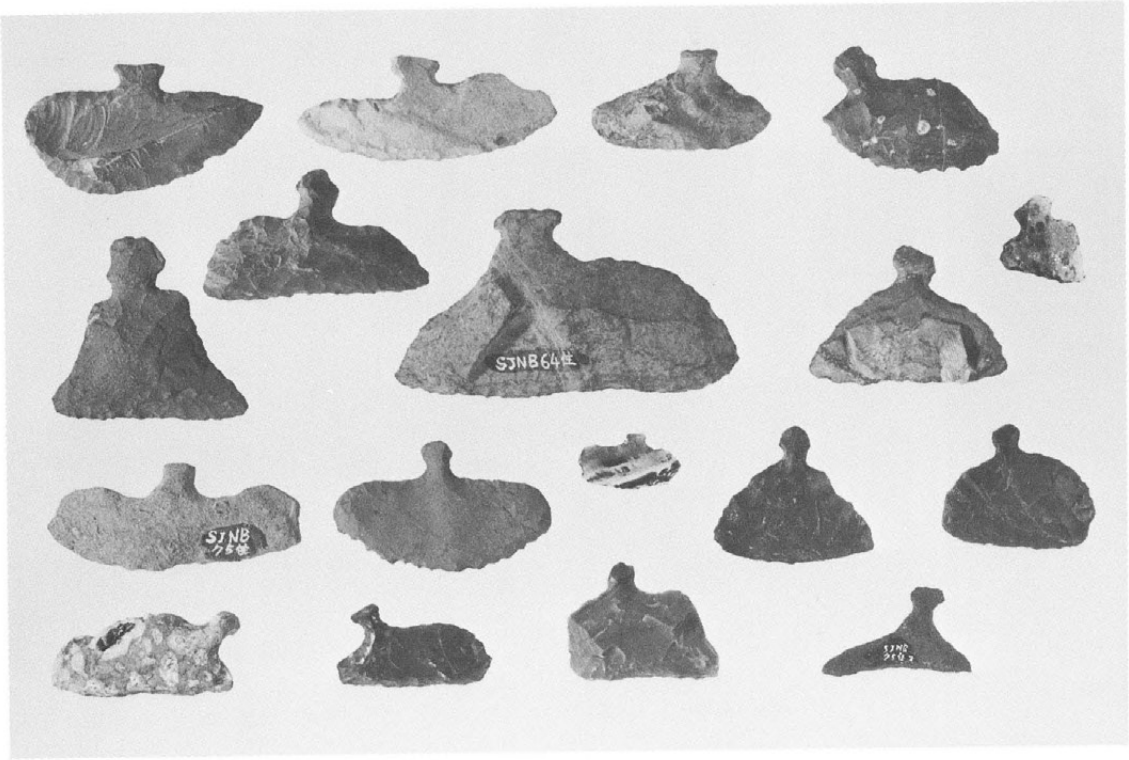


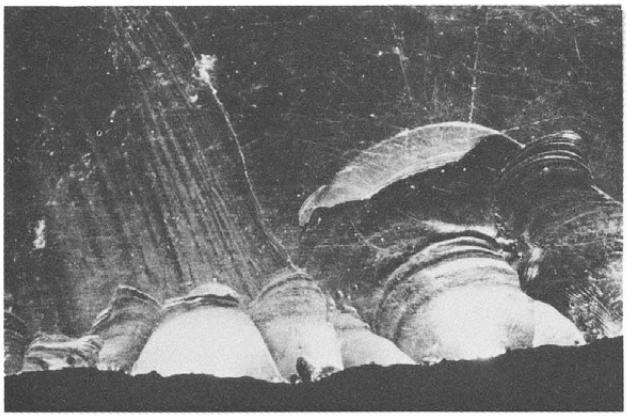
石鏃ー無茎円基・無茎尖基・有茎，石槍，抉入刺突具，石匙ー縦型・斜型（1：2）

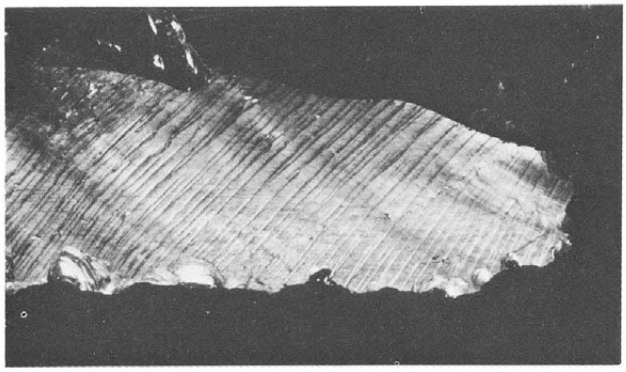
図版106　十二ノ后遺跡出土石器（石匙）





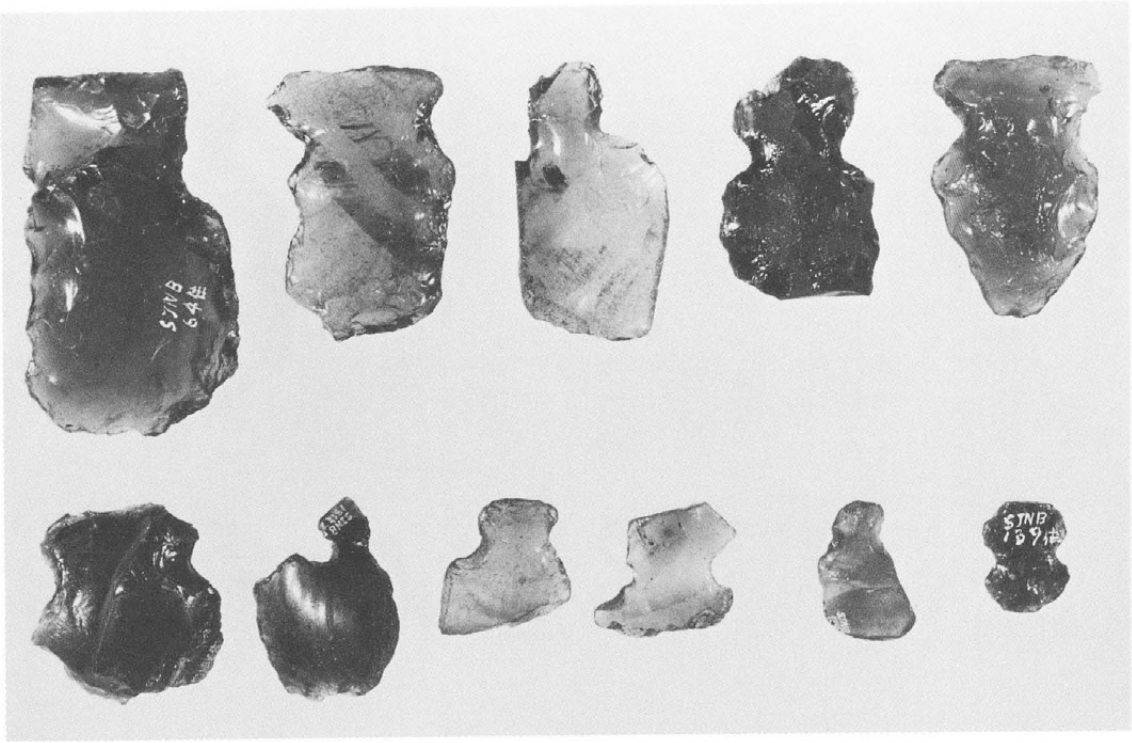
横型・斜型（1：2）

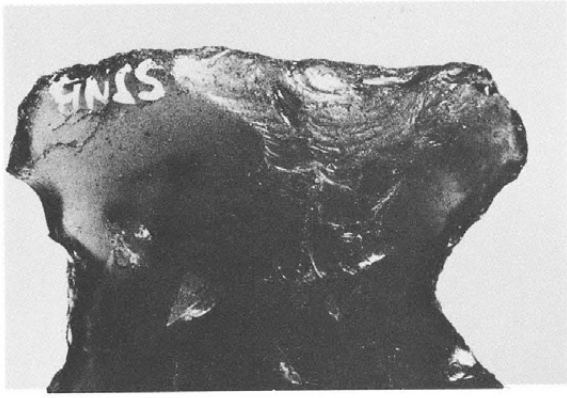


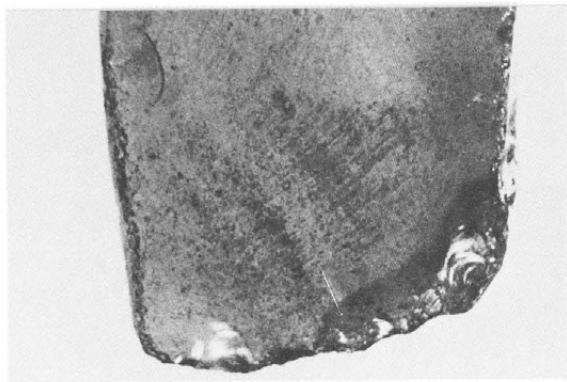


上　スクレイパー（1：2），下　使用痕（線条痕）（×3）

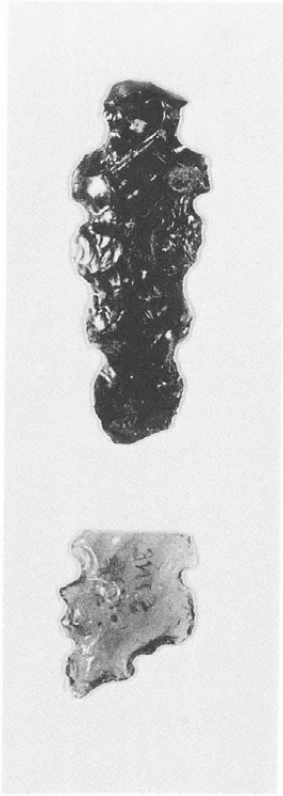
図版108　十二ノ后遺跡出土石器（小型有抉顕磨石器）

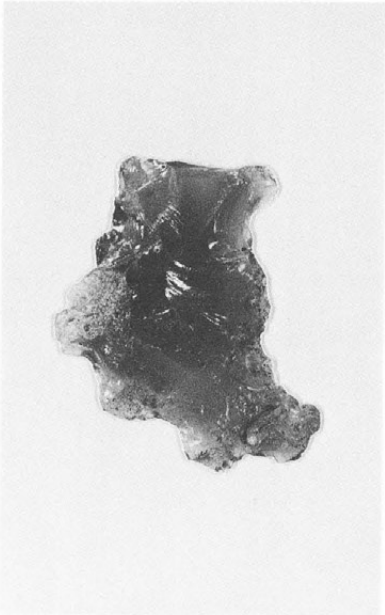






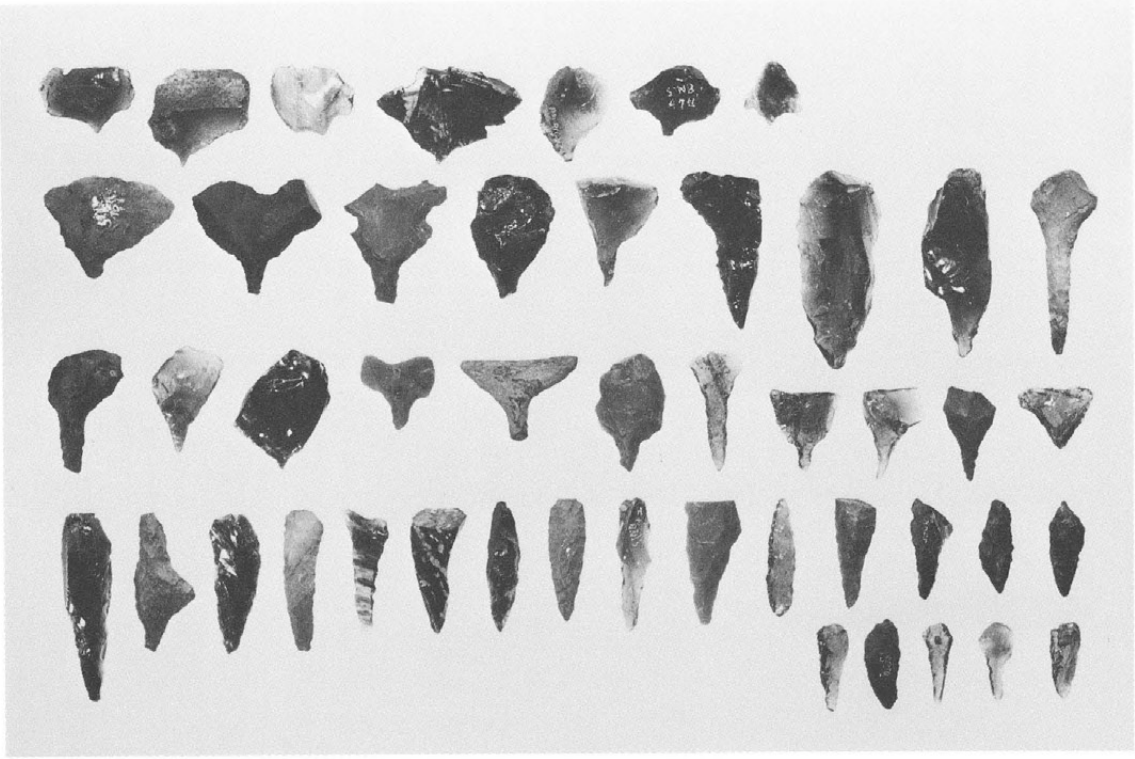
上　小型有抉顕磨石器（1：2），下　使用痕（点状痕・稜線つぶれ）（×3）

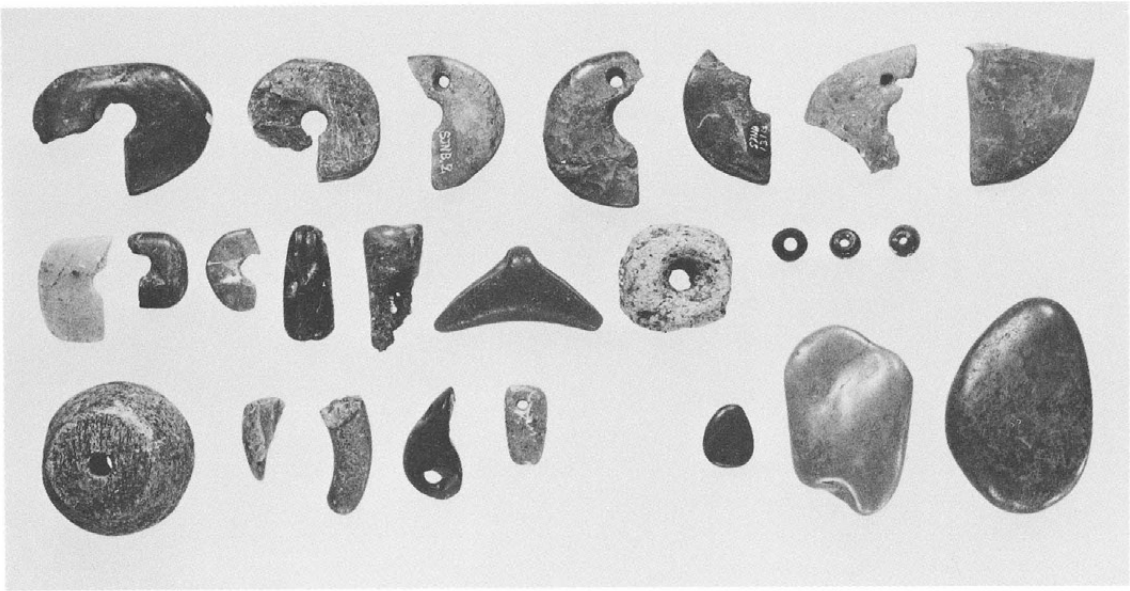




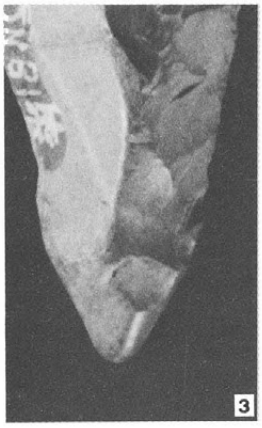
複数抉入石器（1：1）

図版110　十二ノ后遺跡出土石器（石錐，装身具，石製紡錘車）



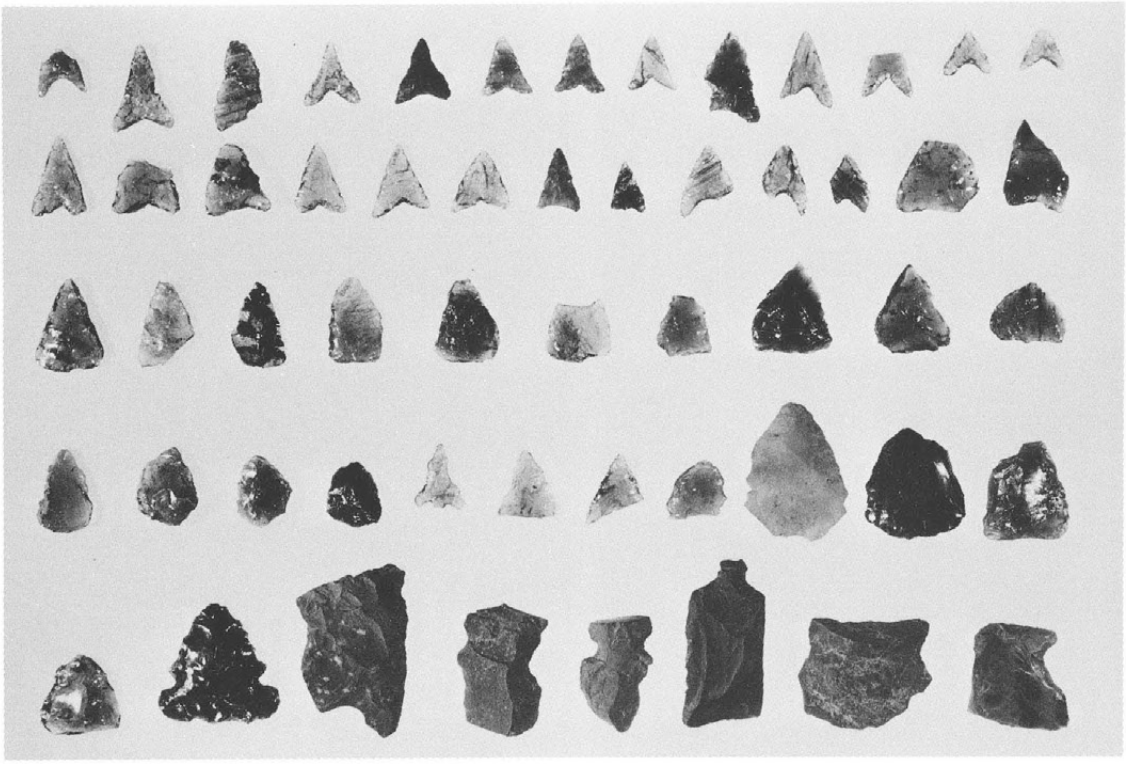


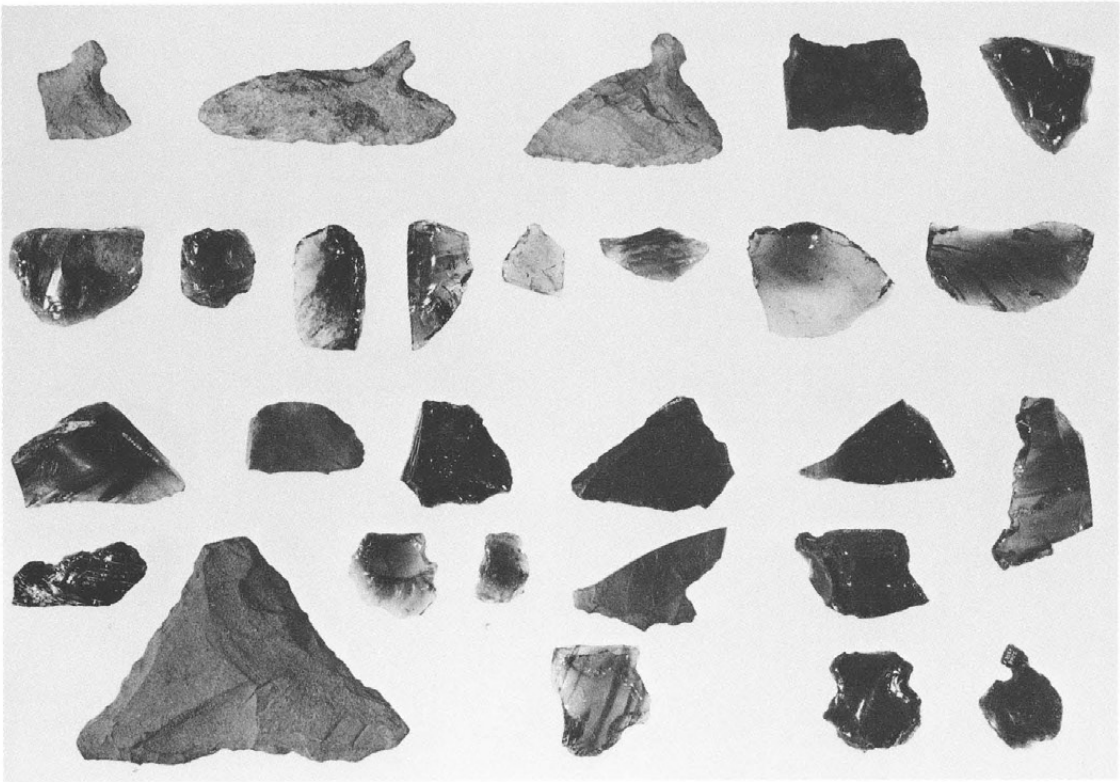
上　石錐，下　装身具・石製紡錘車（1：2）



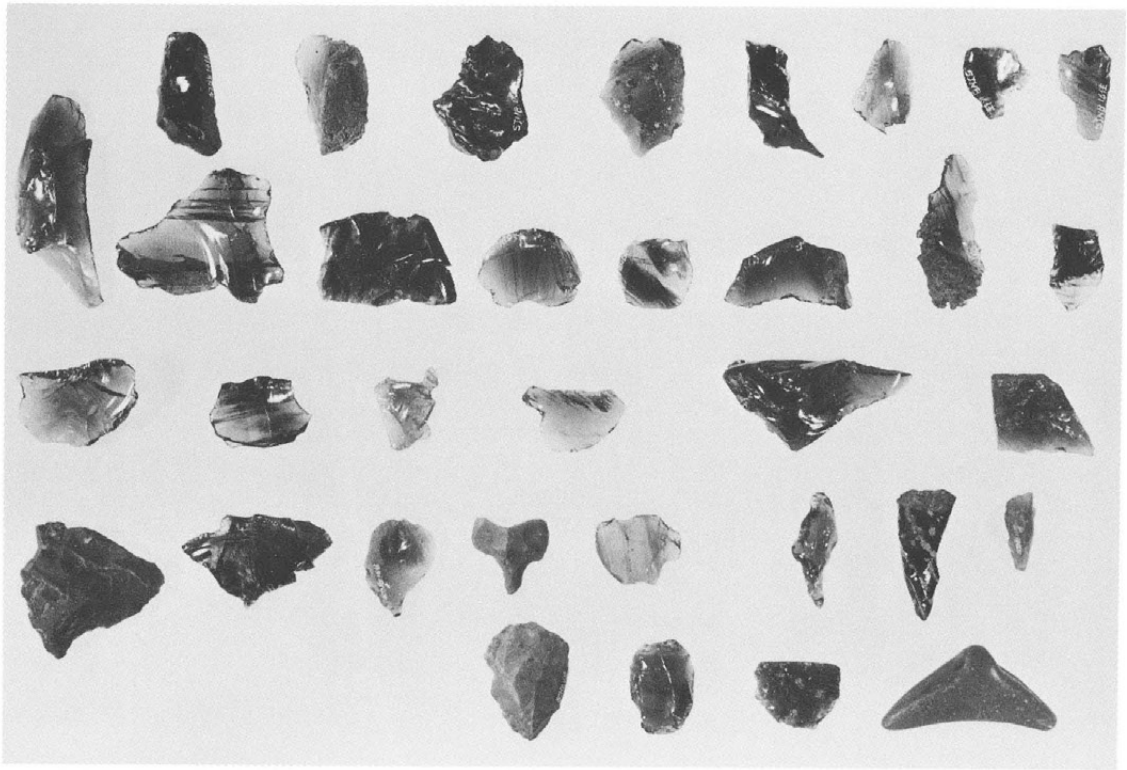
1～4：石錐，5：原石，6：剥片（1・5・6：擦痕，2：つぶれ，3・4：磨耗）（1・6：×3，5：×4，他は×5）

図版112　十二ノ后遺跡16号住居址出土小形石器（その1）



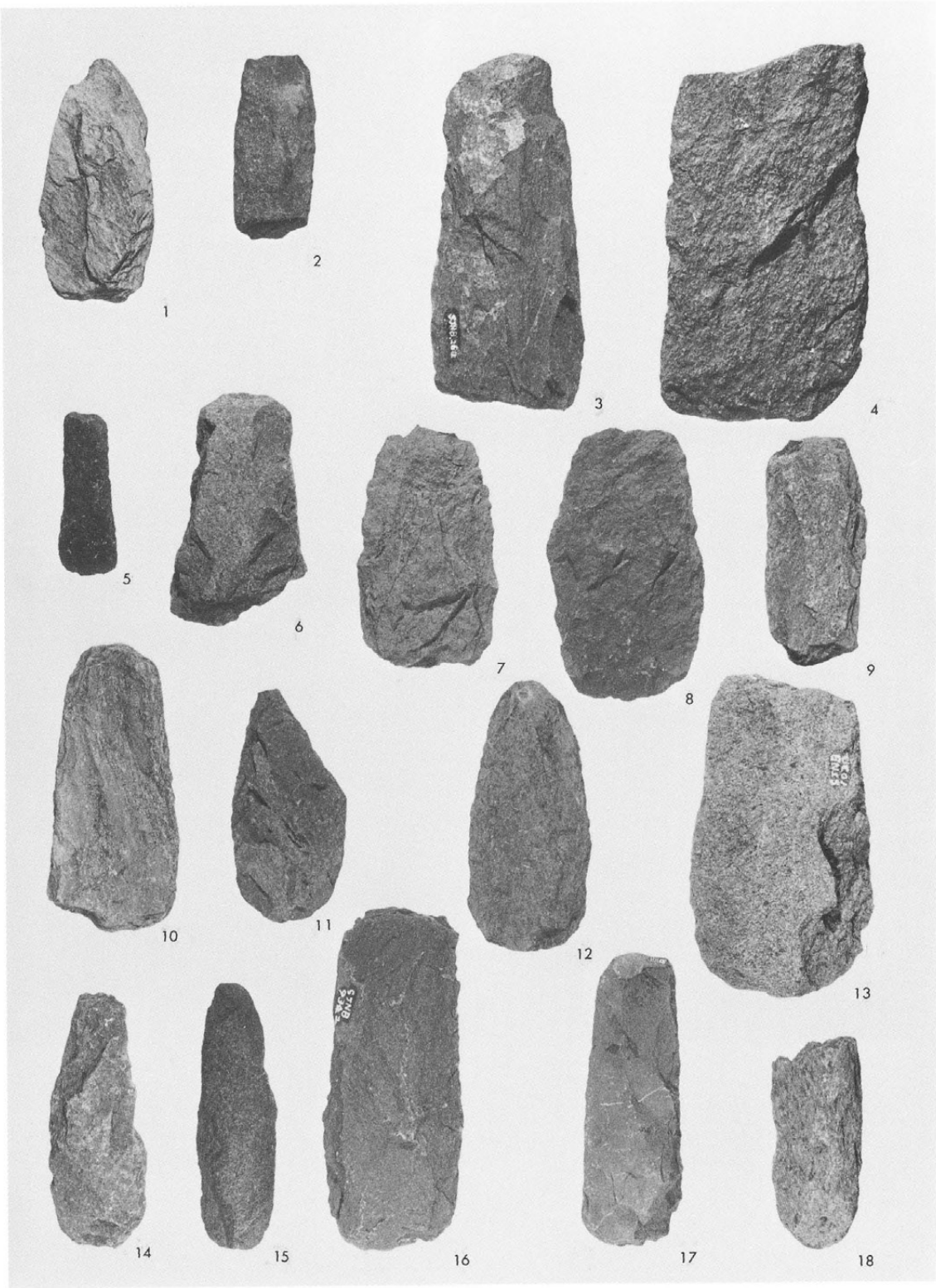


（1：2）

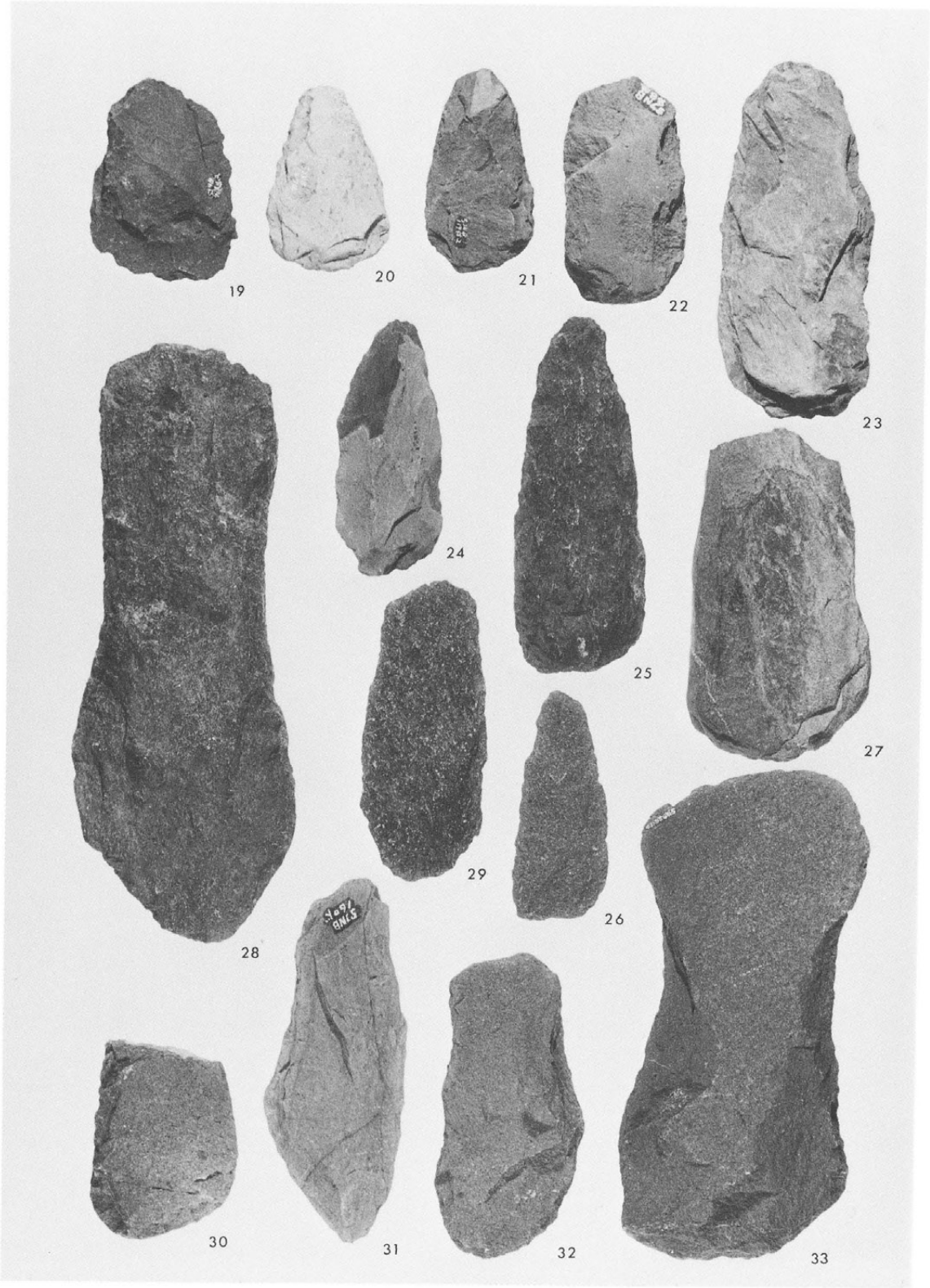


（１：２）

図版114　十二ノ后遺跡出土石器（打製石斧）

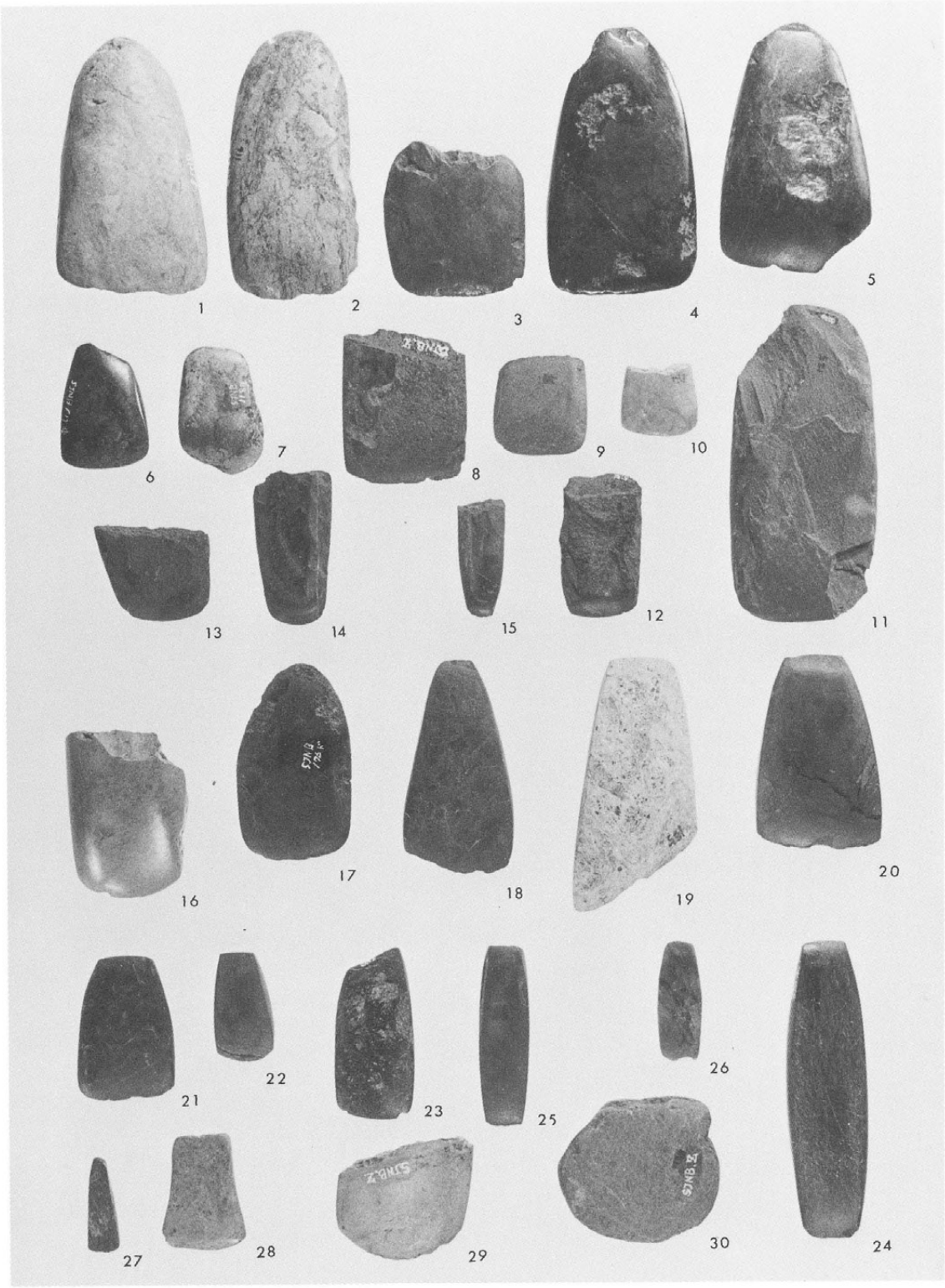


（約1：2.5）



（約1：2.5）

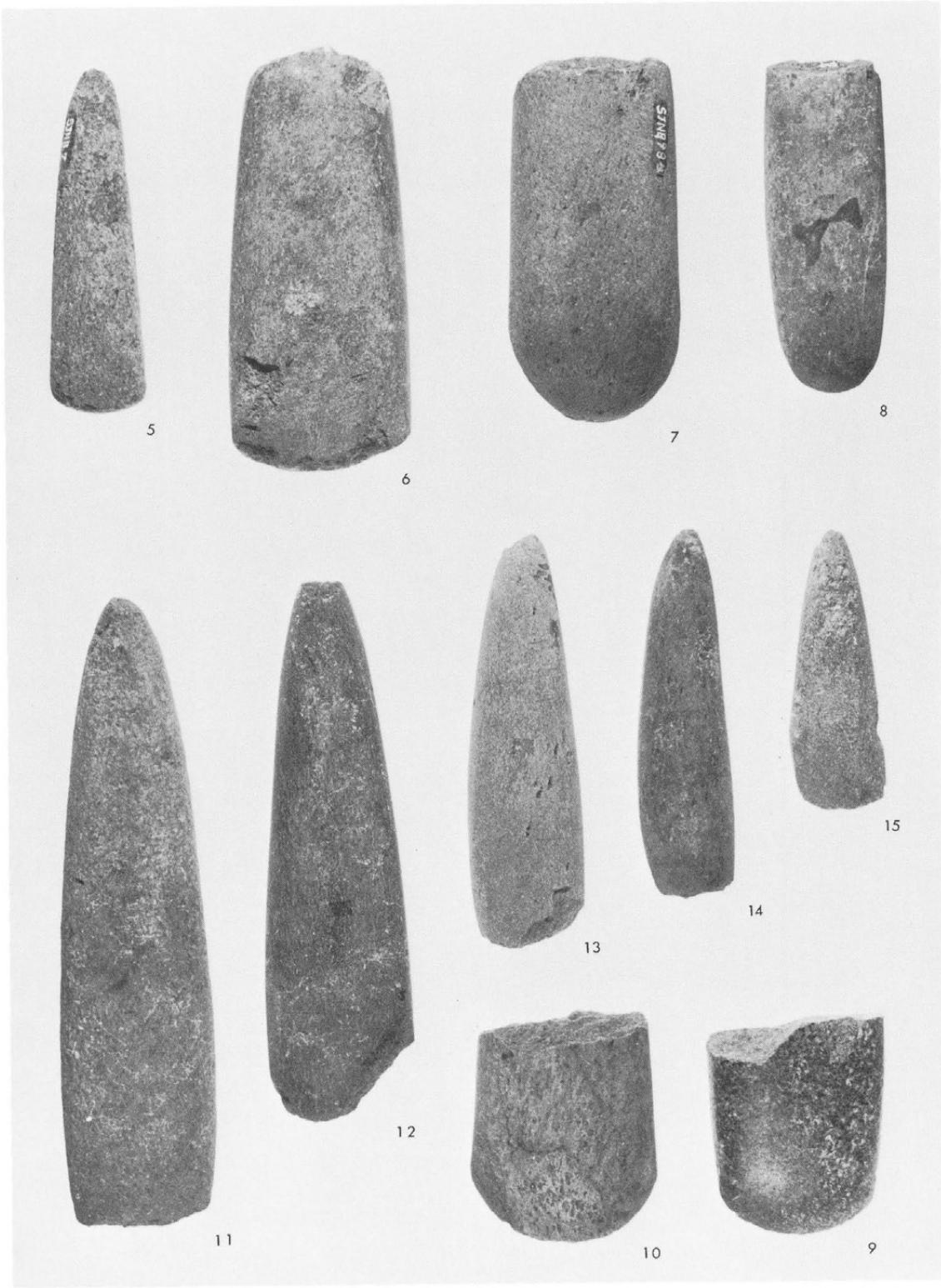
図版116　十二ノ后遺跡出土石器（小型磨製石斧）



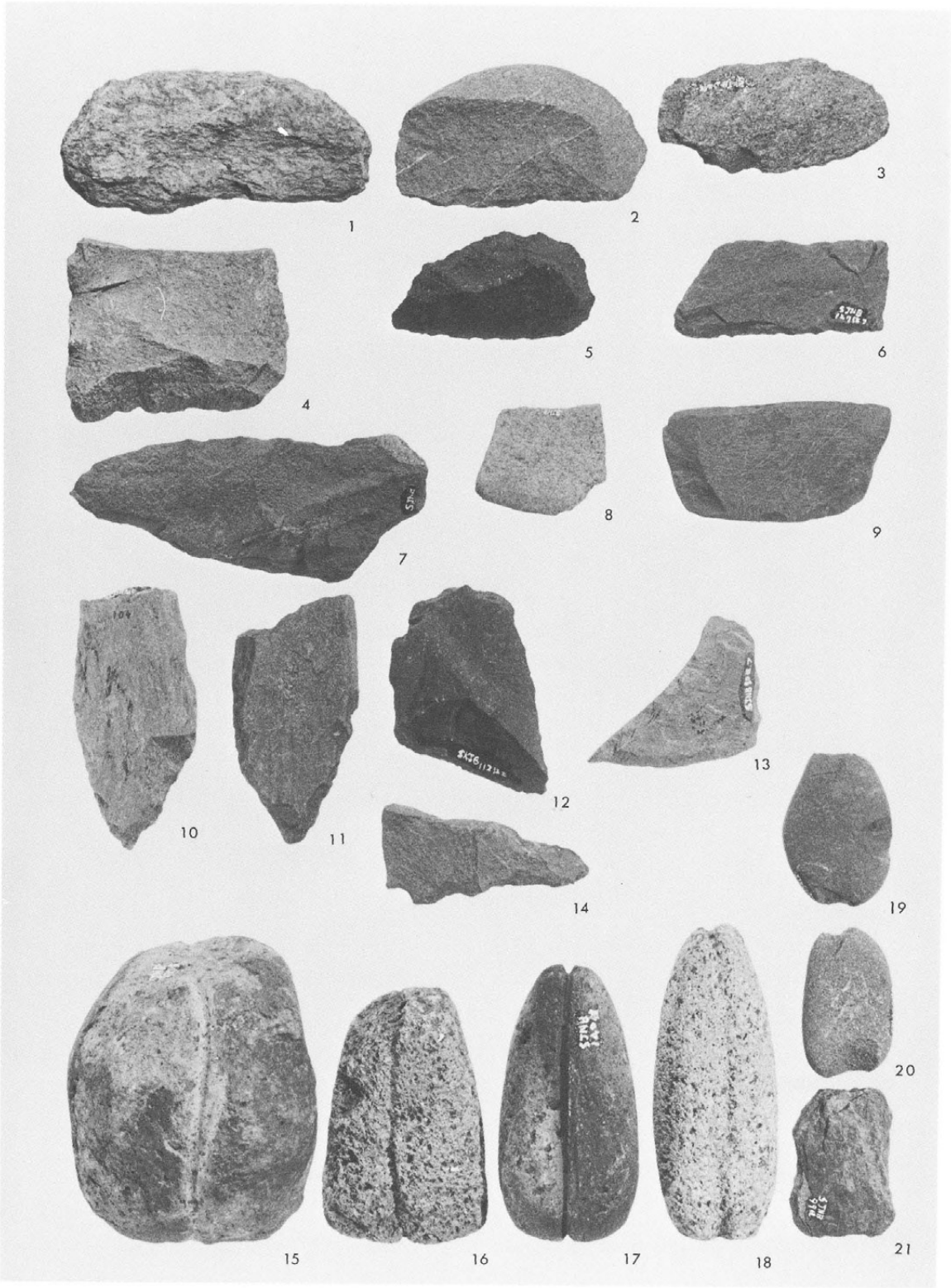
（1：2）

（約1：2.5）

図版118　十二ノ后遺跡出土石器（乳棒状石斧）

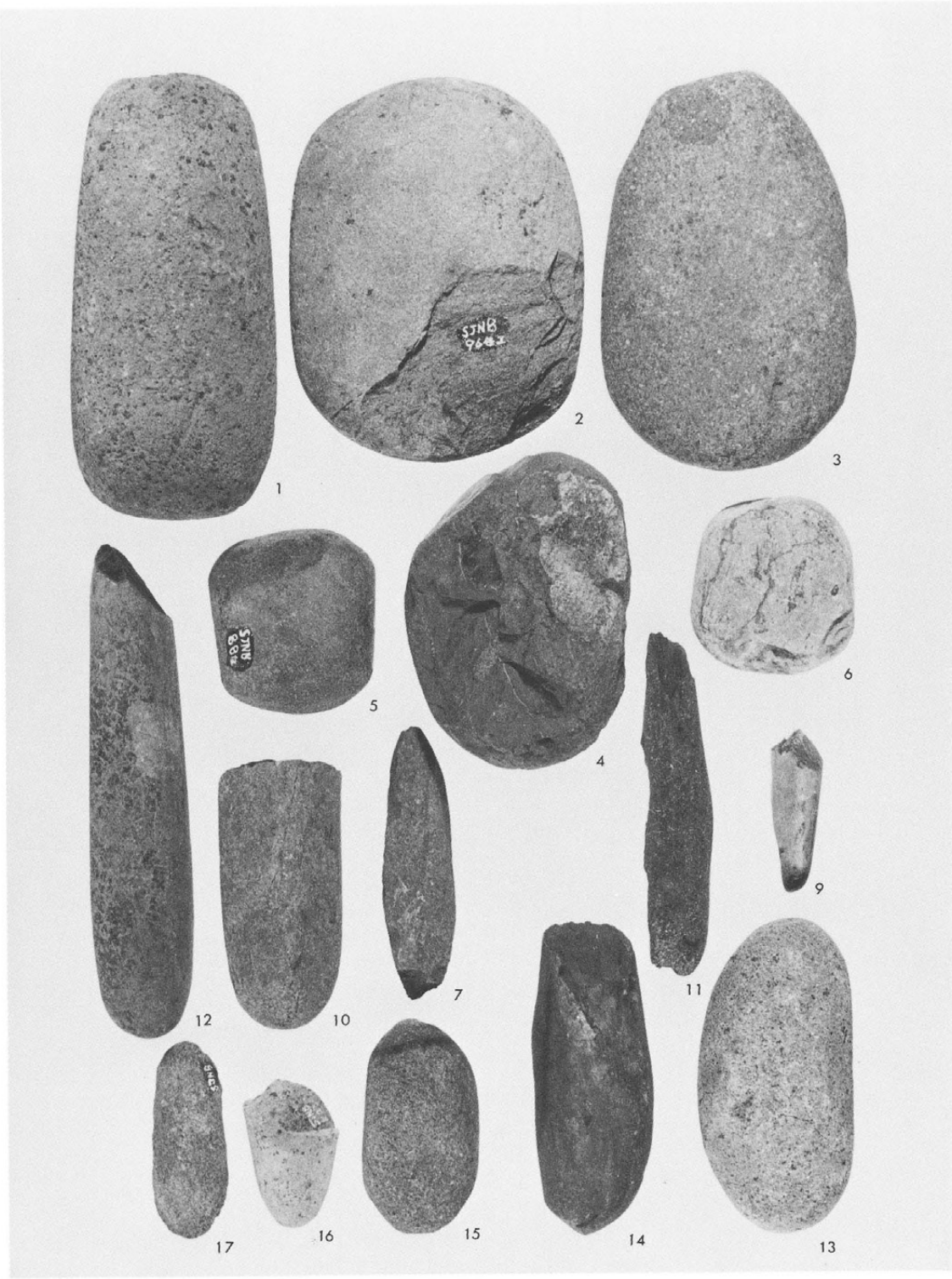


（約1：2.5）

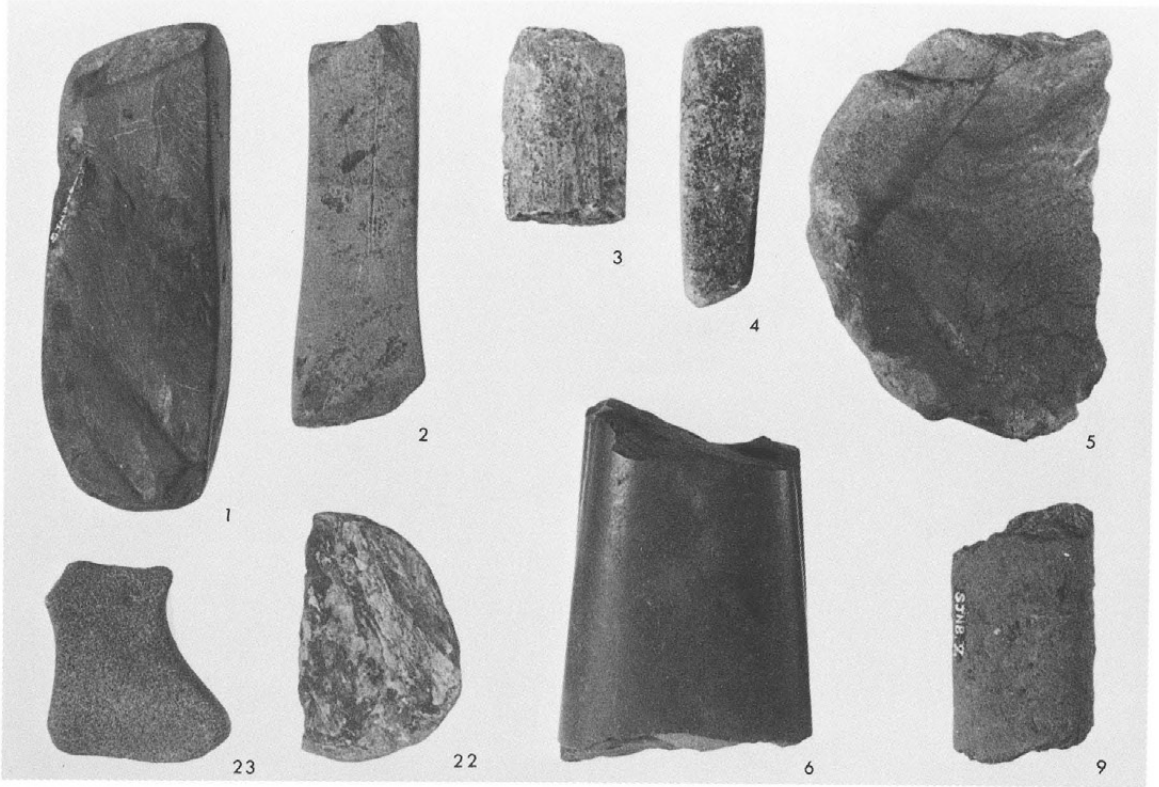


（1：2）

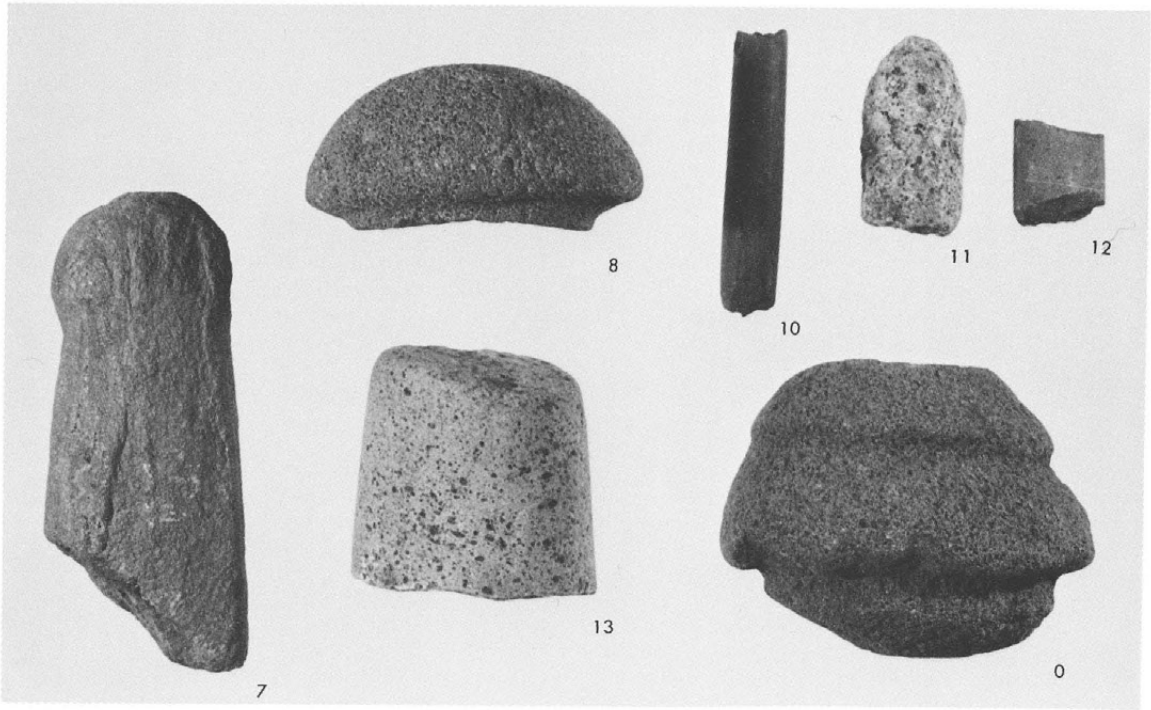
図版120　十二ノ后遺跡出土石器（敲打器）



（1：2）

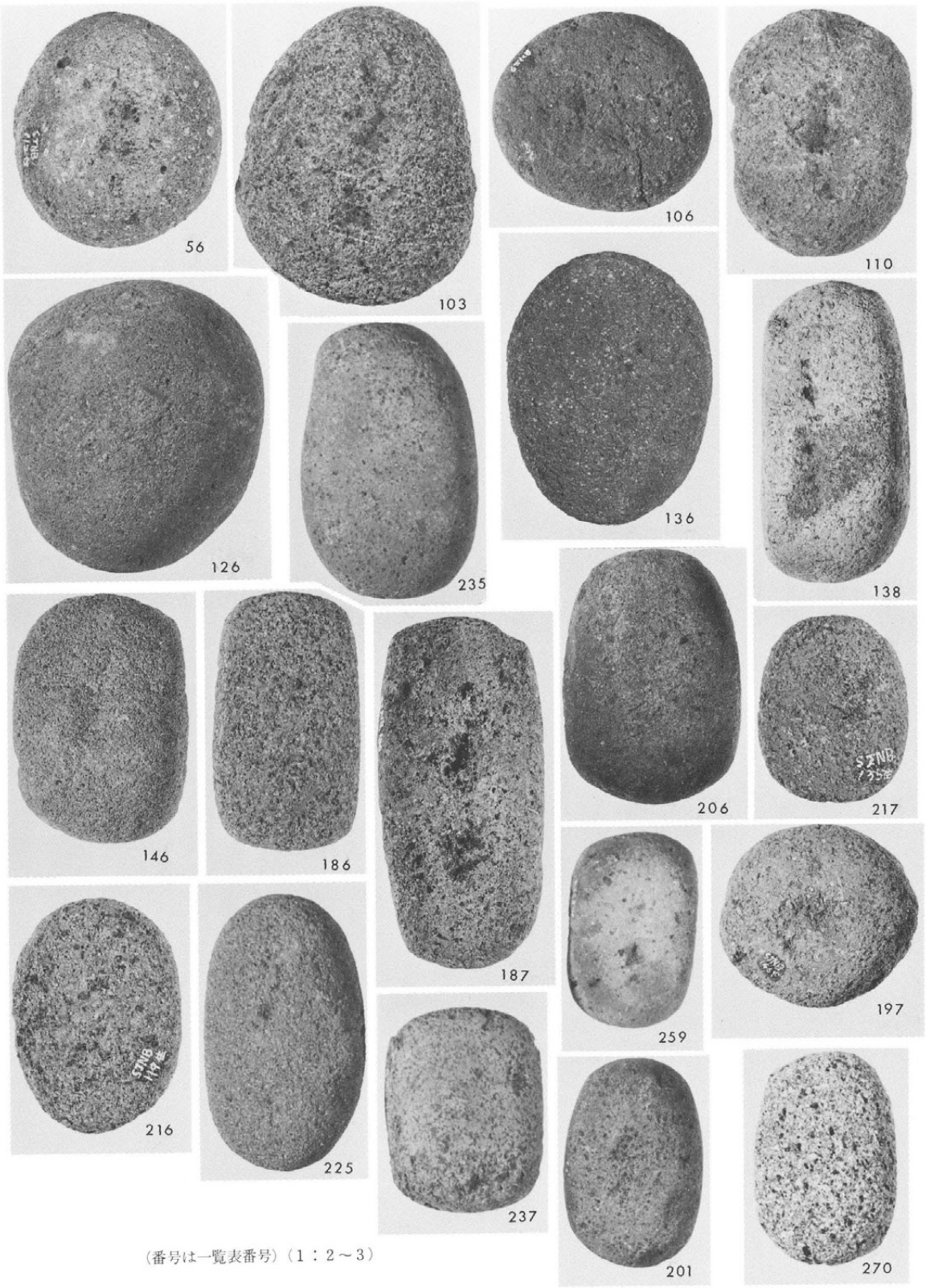


（約1：2）

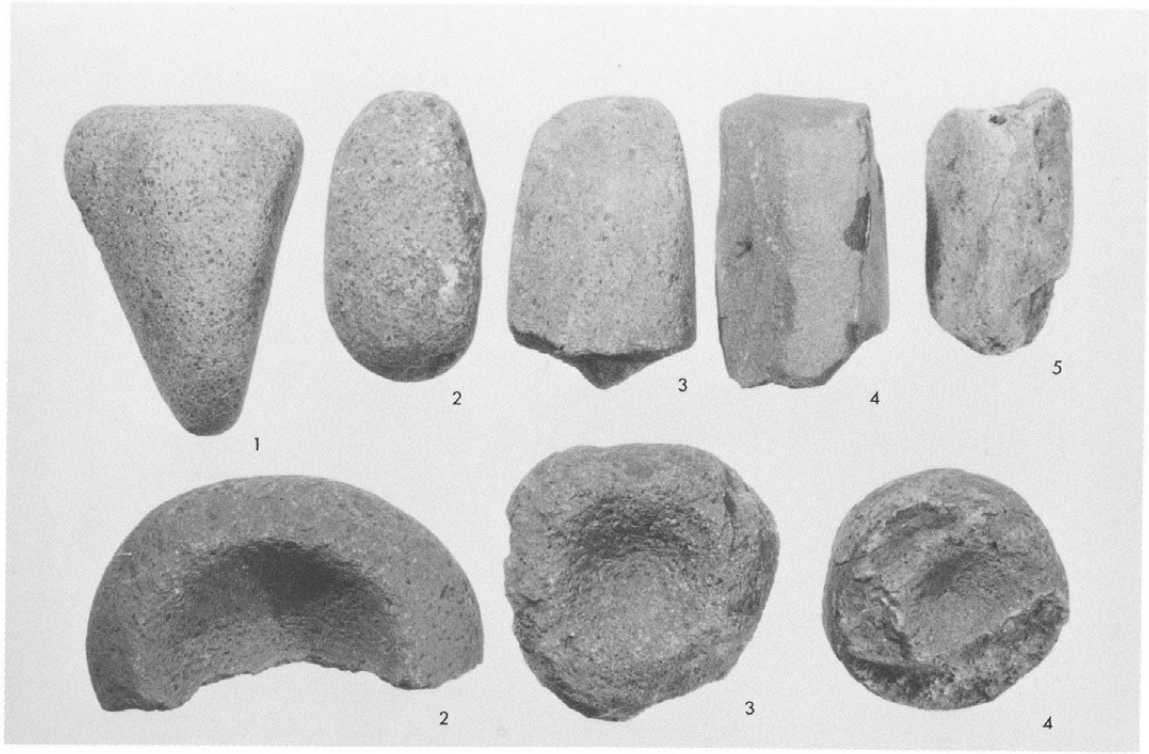


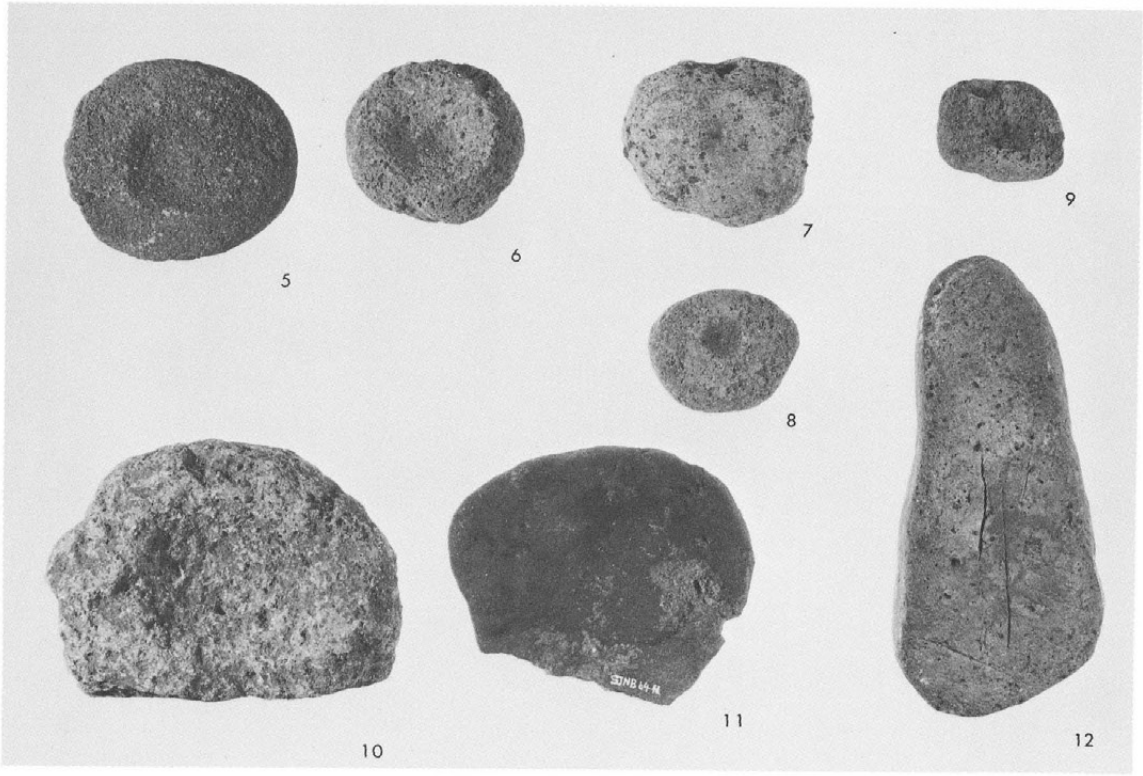
（約1：3）

図版122　十二ノ后遺跡出土石器（特殊磨石・凹石）



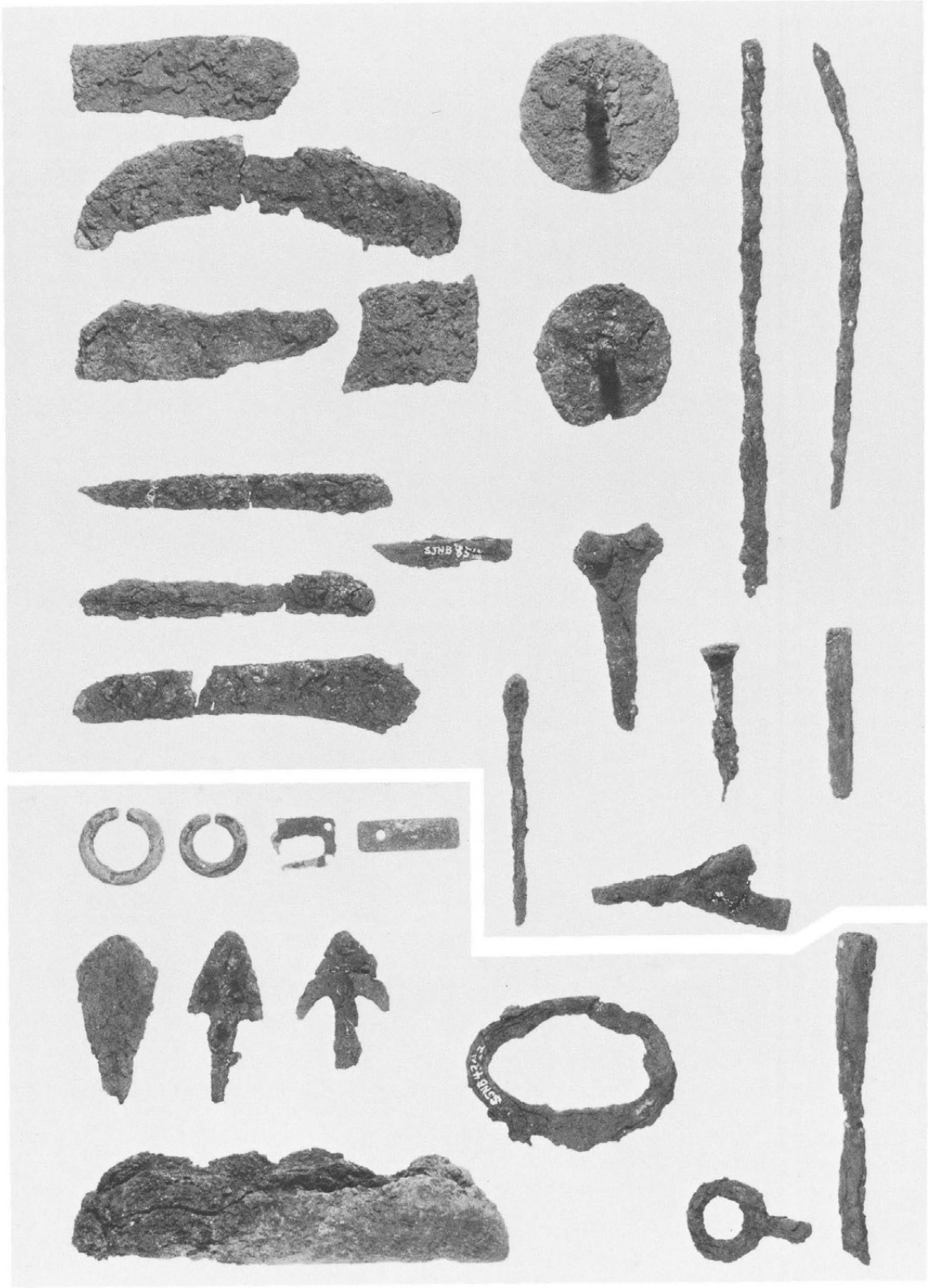
（番号は一覧表番号）（1：2～3）



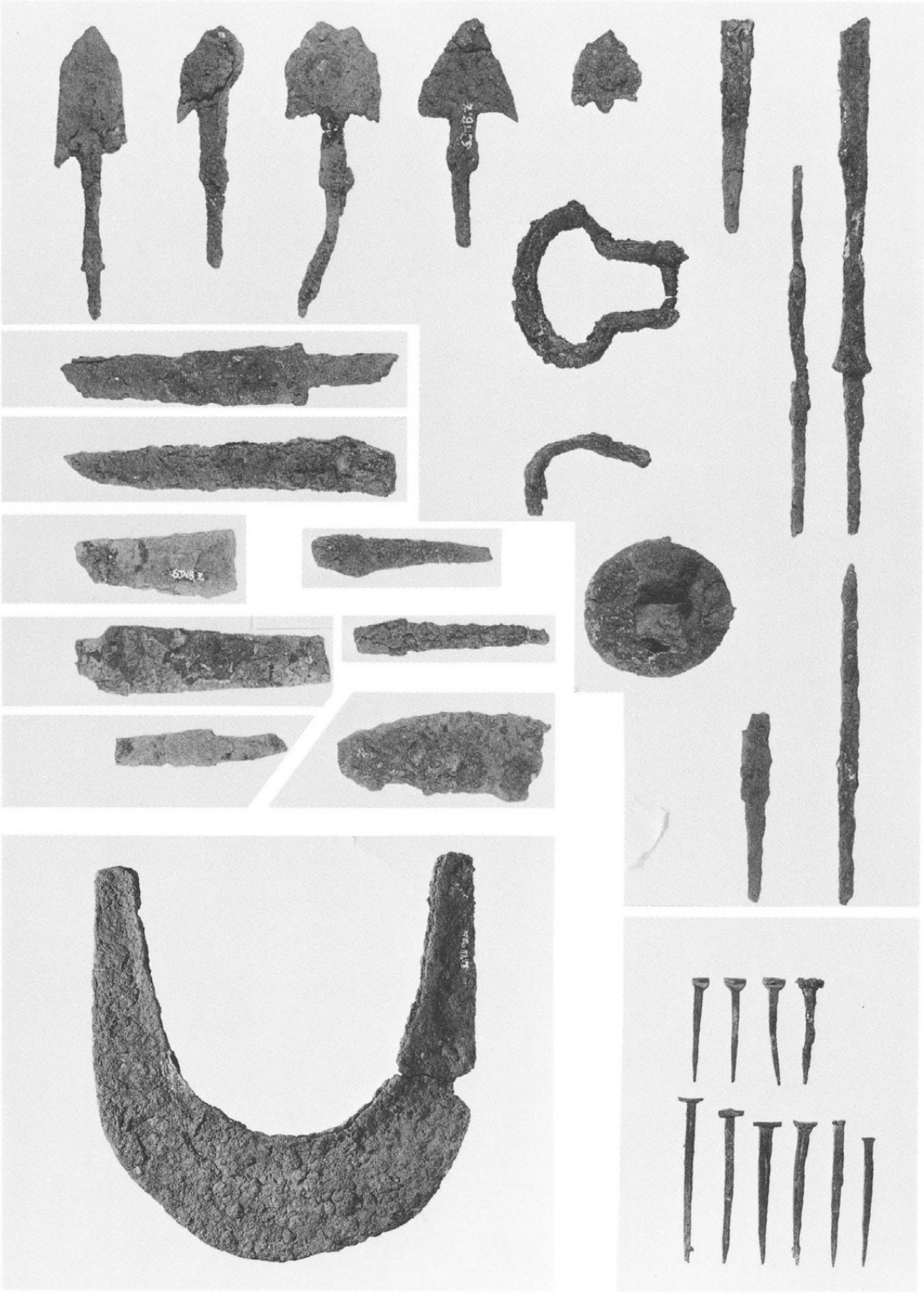


（約1：3）

図版124　十二ノ后遺跡出土鉄製品（その１）

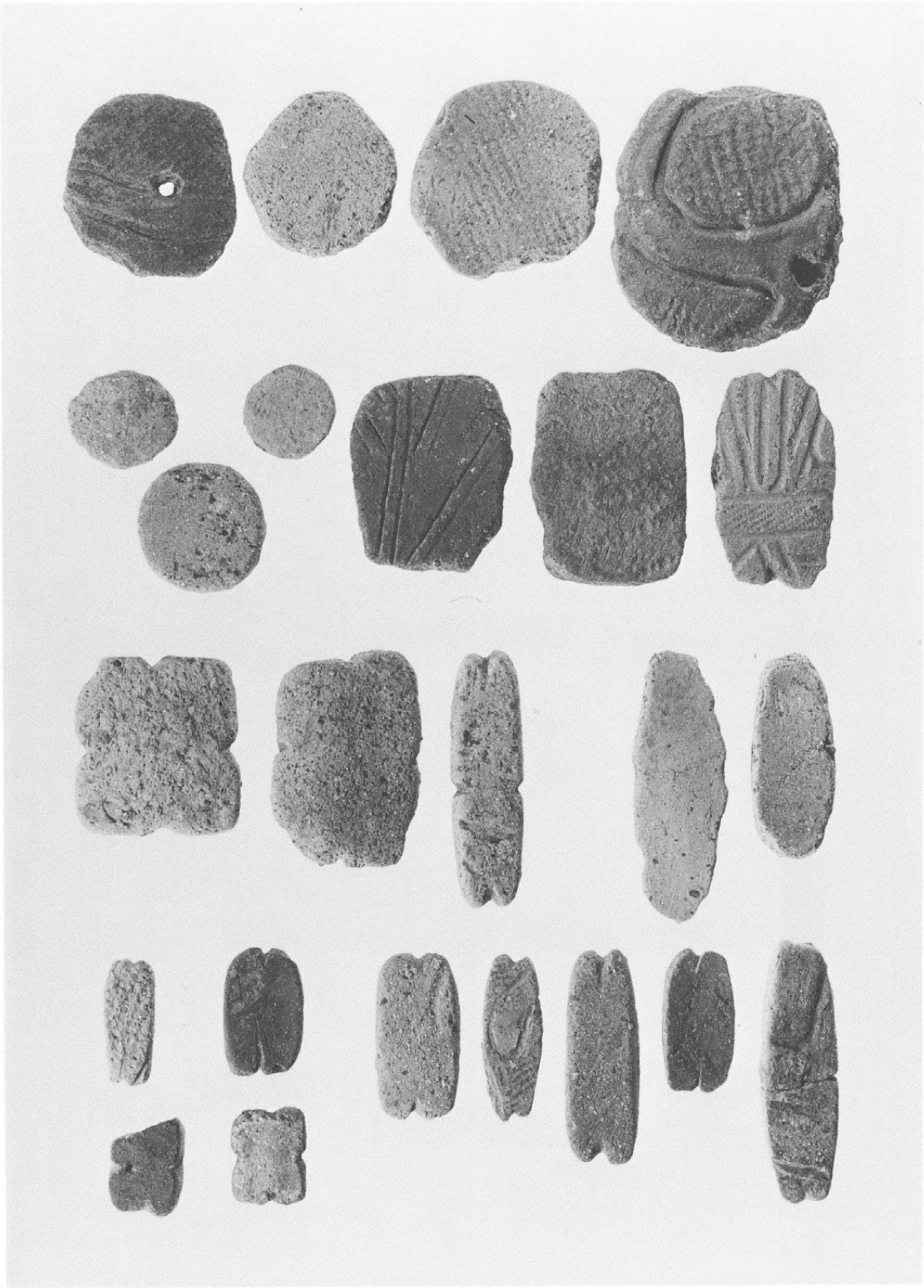


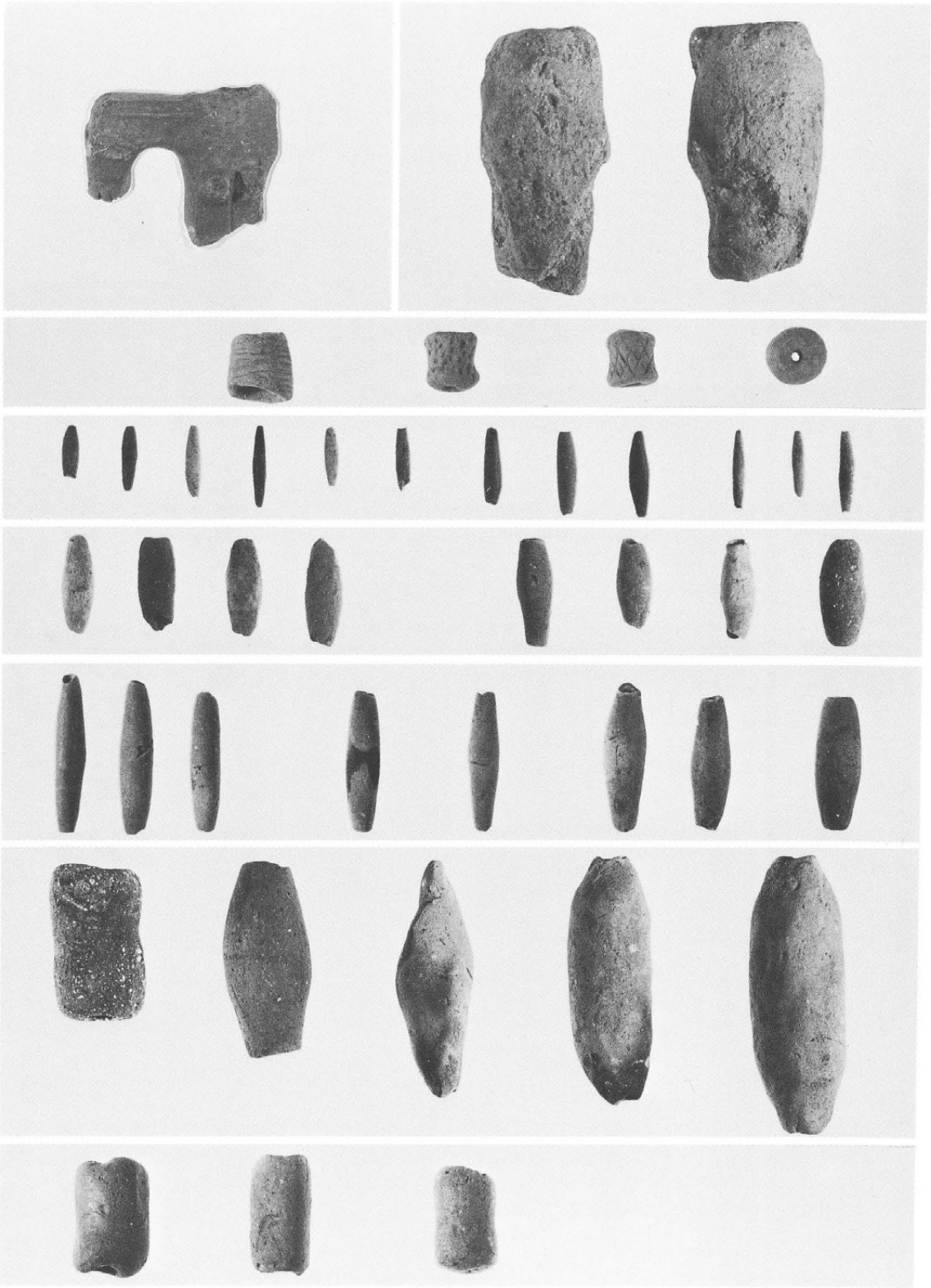
（１：２）



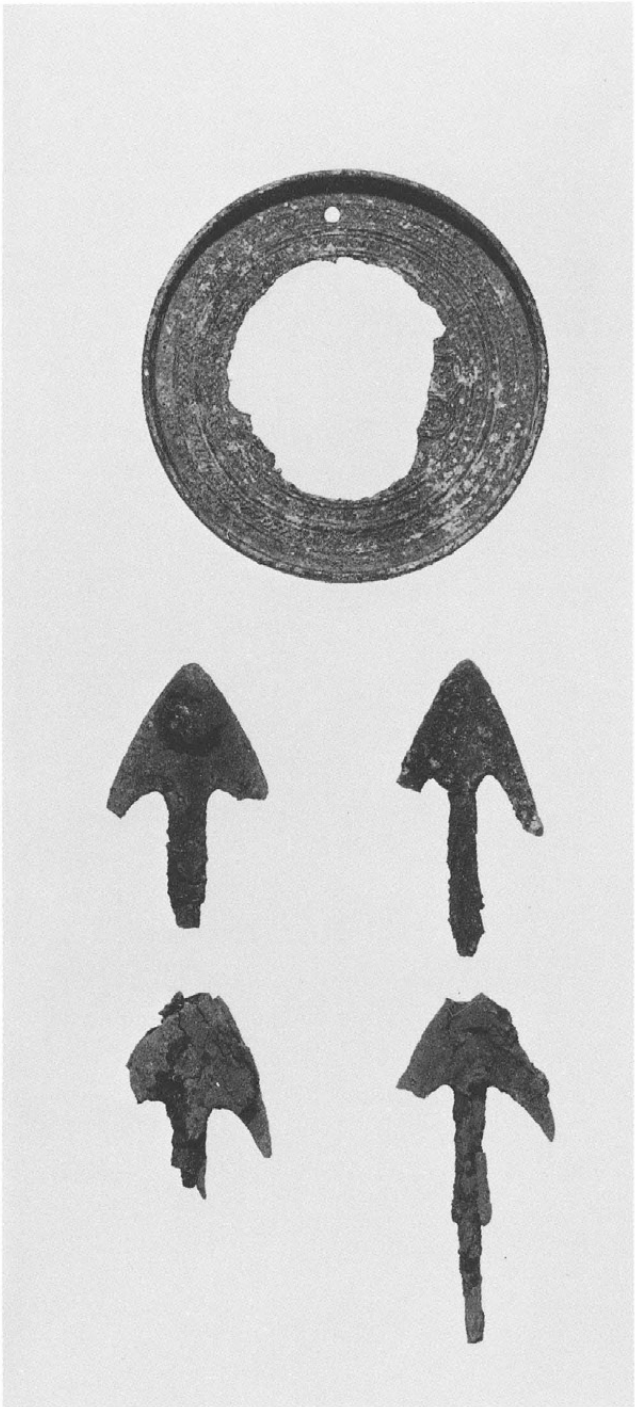
（１：２）

図版126　十二ノ后遺跡出土土器片錘



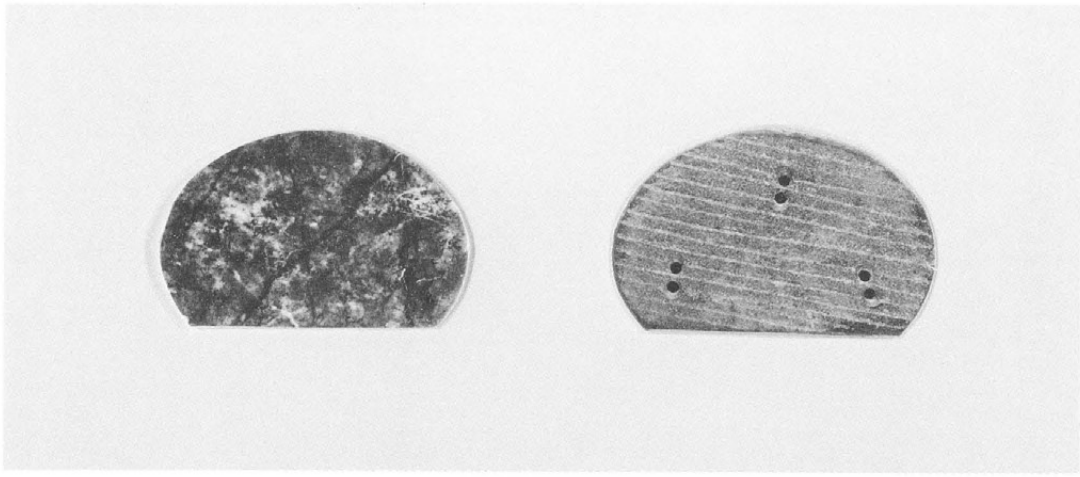


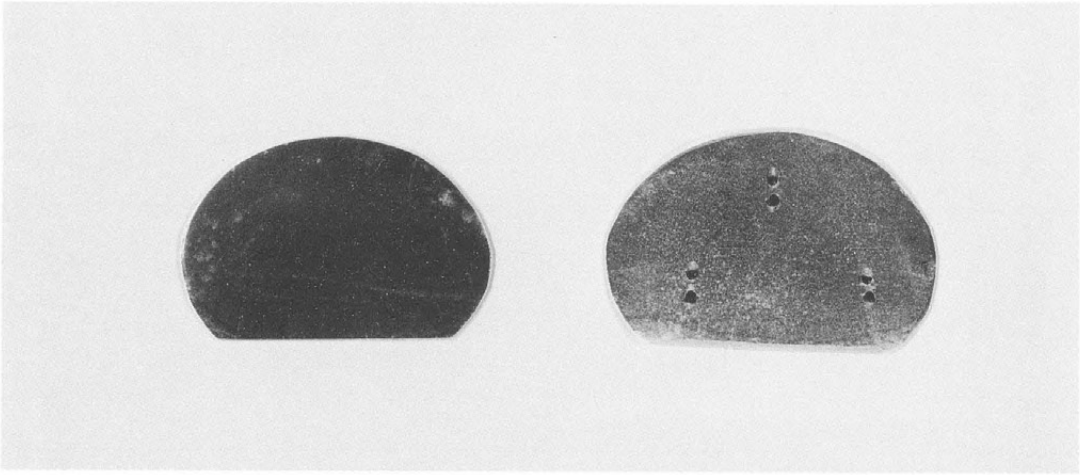
図版128　荒神山古墳出土遺物

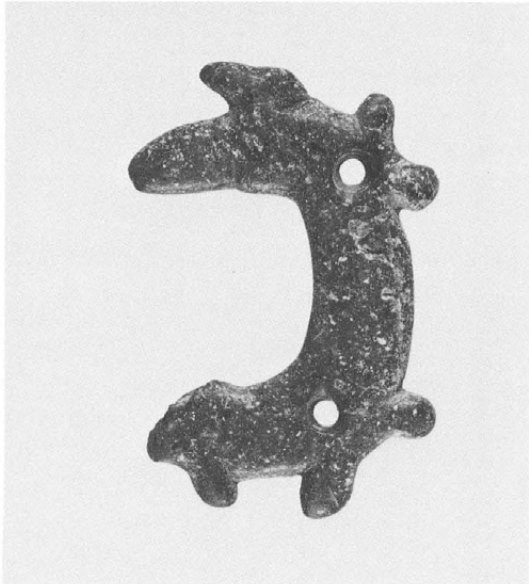


（1：2）

（約1：1.5）







上・中：石帯，下：子持勾玉（1：1）

報告書作成関係者一覧

本書は、種々の事情により刊行がおくれたため、報告書作成作業に従事した担当者の移動が多く、当初計画したものより大幅な変更を余儀なくされた。ために、最終的原稿執筆者は各項の末尾に氏名を記したが、それ以前の関係担当者は省略してある。現場発掘調査については本文３頁に記してあるので、それ以後の各項担当者を以下に記し、本書完成の蔭の力となっていただいたことを感謝したい。（順不同）

整理復元作業	辰野伝衛	根津清志	福沢幸一	小松原義人	堀　知哉
	細川光貞	木下平八郎	平出一治	松永満夫	郷道哲章
	高桑俊雄	田畑辰雄	小林正春	福島邦男	三浦孝一
	村上(小池)孝	矢島宏雄	長沼英光	岩崎孝治	藤森美枝
	山本賢司	坂野和信	佐藤信之	中島庄一	知名定順
	片山　徹	山内志賀子	板倉たせ子	丸山雅子	関　喜子
	矢崎つな子	矢島恵美子	赤羽淑子	島田哲男	
拓　　本	根津清志	小松原義人	堀　知哉	細川光貞	山内志賀子
実測・トレース	平出一治	松永満夫	高桑俊雄	小林正春	田畑辰雄
	福島邦男	村上　孝	矢島宏雄	山本賢司	坂野和信
	中島庄一	丸山雅子	宮沢恒之	山田瑞穂	伴　信夫
	笹沢　浩	小林秀夫	青沼博之	百瀬長秀	土屋　積

写　　真　現場では各担当者。整理段階では主に木下平八郎が当り、各主任が一部分担した。

土器復元　最終段階では主に福沢幸一が分担した。

編　　集　当初は山田瑞穂（金鋳場・神送山）、宮沢恒之（十二ノ后）が中心となり、今村善興がこれを総括した。宮沢の退団後は山田が中心となり、実測図、拓影図の製版を終了し、図版類は今村が編集した。山田・今村の退団後は樋口昇一が全般を引継いだ。

あとがき ： 中央道関係の遺跡調査としては、最大級であった十二ノ后遺跡、それにつづく金鋳場遺跡、と追加の二遺跡、計４遺跡の報告がようやく終了した。共に２ヶ年にわたる調査であり、山田・宮沢両主任の労苦は大変だったと聞く。とくに十二ノ后遺跡担当の宮沢主任は、整理もその初期の段階で退団をよぎなくされ、さぞ心残りであったと思う。その後は調査期間中の雨天の日や、冬期間の整理日、分担した団員により引き継がれてきたが、最大のネックは、調査担当者の退団による能率の悪い作業工程であった。ぼう大な資料に振り廻され、最后に責任者となった私などは、全体像の把握もできず、団員諸氏に御迷惑ばかりおかけしてしまった。それに加え、発掘資料の量と報告書の頁数の調整がつかず、二転三転し、ようやくここに落着いた。大幅な頁数削減のため遺構説明は極端に簡略化し考察篇ともいうべきまとめに全力をという計画であったが、これまた途中変更を余儀なくされ、実にバランスのとれない内容となり、中途半端な結末となってしまった。多くの労力をさいた団員諸氏におわびすると共に、本書を利用される方々に御了解ねがいたい。50年度は、大石遺跡というもう一つの大遺跡にあたり、共に同じような経過をたどって今日に至った。500頁をこえる両報告書をいよいよ出版する段階に到り、あらためて関係諸機関、関係者全員の皆様の御援助・御協力に厚く感謝申し上げたい。とくに、両書出版に当った電算印刷関係者には、相当無理な注文ばかりおねがいしたにも拘らず、心よくお引受けいただき末筆ながら御礼申し上げたい。

（樋口　昇一）

長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

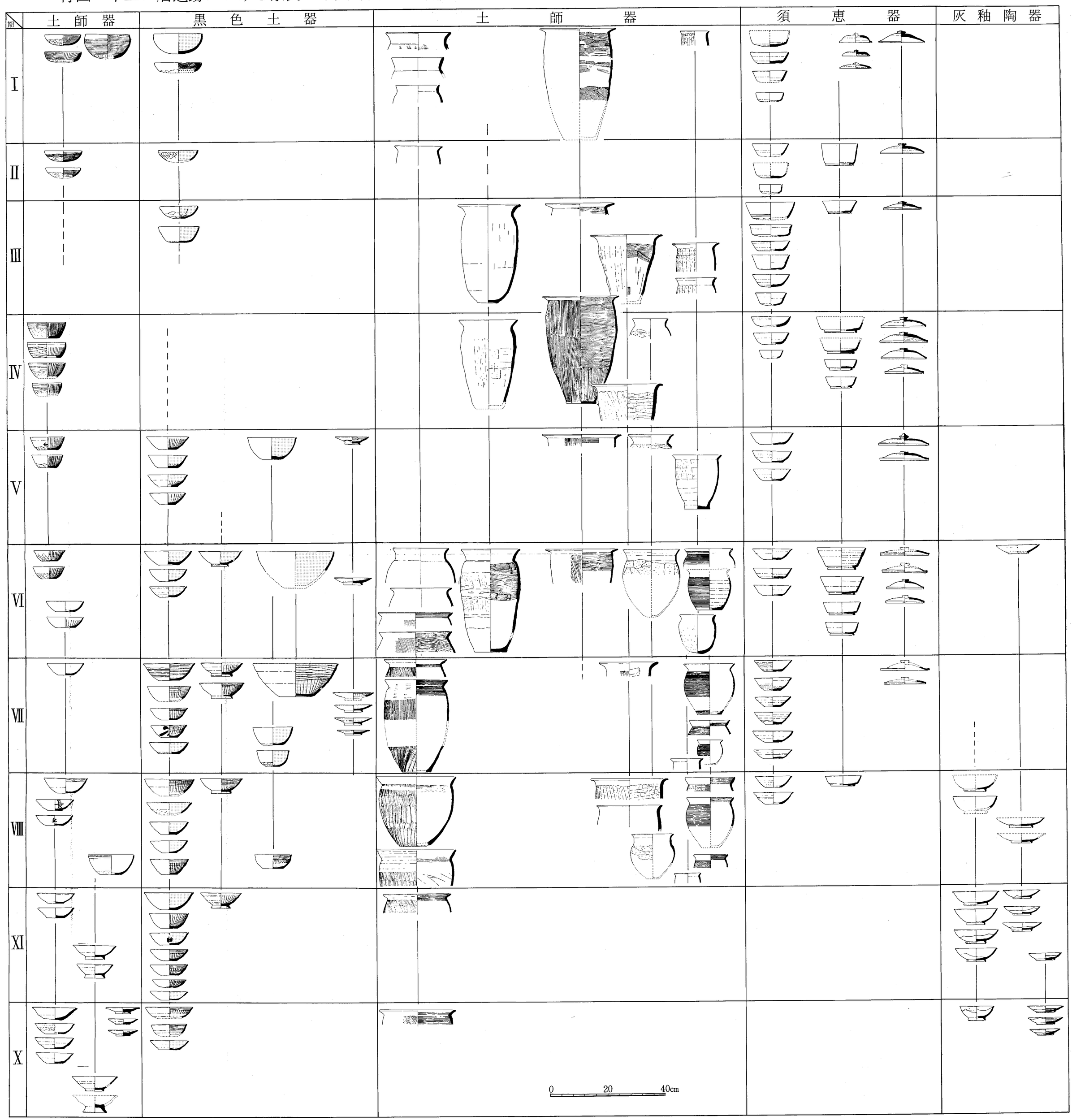
―諏訪市 その４―

昭和51年３月10日　印刷

昭和51年３月20日　発行

発行者　日本道路公団名古屋建設局
長野県教育委員会

印刷所　松本市筑摩３２７０
電算印刷株式会社
電話 ㉕４３２９（代表）

〔非売品〕

付図　十二ノ后遺跡における奈良・平安時代の土器編年(1/8)